

社会科学学習指導案

日時 平成19年11月8日(木)5校時
学級 二戸市立浄法寺中学校1年A組
(男子21名 女子18名 計39名)
場所 1年A組教室
授業者 松田 慎也

1 単元名

下剋上の世 土一揆と応仁の乱

(教育出版『中学社会 歴史 未来をみつめて』 第3章 中世の日本と世界 / 2 ゆれる武家政治)

2 単元について

(1) 教材について

この中単元では、14世紀中期から16世紀にかけての封建社会のようすを学習する。具体的には、鎌倉幕府の滅亡から建武の新政、南北朝の争乱を経て室町幕府が成立し、その後戦国大名が台頭していく中で、幕府の政治が揺らいでいく時代について扱う。

中学校学習指導要領の内容(3)アでは、「武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させる」ことをねらいとしている。ここでは、武家政権の誕生から戦国時代という歴史的転換期までの時代の流れをとらえながら、社会変動の主体となった民衆勢力の動きについて理解させていく。また、自治が発達した惣村では、一揆などの民衆による領主階級への反発となって表れ、下剋上という主従関係の逆転が起こった。さらに、応仁の乱を境にして幕府の衰えが進んだこと、戦国大名が台頭してきたことを理解させていく。

本時で扱う「土一揆の広がり、徳政令、一向一揆」は、小学校6学年の社会科では扱っていない。また、関連項目として、中学校1学年の地理的分野で都道府県名と位置の学習を行っている。

(2) 生徒について

1学年の社会科の学習は地理的分野から始めた。しかし、地理の学習に苦手意識を持つ生徒は4月当初から多かった。4月の授業開きにおいて生徒にアンケートをとってみたところ、「歴史は楽しいけど、地理は難しい」という回答が大半を占めていた。

歴史的分野の学習では小学校との接続を考慮し、6学年当時の授業の流れを踏襲して進めてきた。特に、授業の中での調べ学習と授業の終末における「まとめ」は時間を割いて指導してきた。「まとめ」は授業の中で扱ったキーワードを手がかりにして、学習課題に対する自分なりの「答え」をノートに書くものであるが、小学校の社会科の授業である程度の書く力を持つ生徒は、それほど苦労せずにまとめることができる。その反面、短文で書き表すことを苦手とする生徒も少なからずいるので、個別指導にあたっている。

社会科の授業の中では、資料の持つ意味は非常に大きい。したがって、毎時間の授業では必ず中心となる資料を用いて、その読み取りから考えを深めていけるように指導をしている。「何が描かれているか」や「グラフはどのように変化しているか」という答えやすい発問に対しては、生徒の反応は概ねよい。しかし、論理的に思考を伴って考えを発表する力はまだ弱いので、継続的に指導をしていかなければならないと考えている。また、資料を介して小グループでの話し合い活動も取り入れている。授業の中で自分の考えを話す(表現する)ことを苦手としている生徒や、自分の考えがなかなか持てない生徒もいるので、机間指導をしながら支援していく。

3 小中の効果的な連携のための指導構想

社会科の研究テーマは「課題解決を図り、表現する力を育てる指導のあり方」であり、その具現化を図るために副題を「資料を読み取る力をつけるための指導の工夫を通して」と設定している。

小学校から中学校への接続期において、共通して学習するのは歴史的分野である。社会科では小中連携のもとに、歴史的分野の学習に視点をあてて指導をしていくことにより、接続期の学習が効果的に行われると考えた。そして、社会科がめざす生徒像（小中ともに社会科で身につけさせたい基礎的・基本的事項）として、次の4点を設定した。

資料をもとに、イメージを広げたり、課題に結びつけたりする力
課題解決をするための一人学びの仕方を身につける力
自分でまとめる力
自分たちや友達の考えを関連づけて、練り合い、自らを表現する力

効果的な連携のための手立てとしては、以下のとおりである。

研究仮説1については、小学校6学年の指導過程を基本としながら、授業の中で資料を手がかりに思考を深められる場面を設定する。また、家庭学習において、復習プリントやワークを活用し、要点を整理させながら基本的な知識の定着を図る。

研究仮説2については、系統表を用い、小学校の学習で扱う基礎・基本の内容をおさえながら中学校の授業を展開する。

研究仮説3については、小中で共通した指導過程における授業を通して、生徒に社会科の学習のしかたを身につけさせたい。また、小中でノート指導を共通に行い、授業での板書を構造化して生徒の学習のまとめとさせたい。

研究仮説4については、単元のまとめとして章末問題に取り組みさせる。また、研究仮説1との関連と重複するが、家庭学習を通して未定着の部分をきちんと定着させる。そのために、家庭学習の進め方を生徒の理解の度合いに応じて指導していく。

4 指導目標

中世の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化に対する関心をもち、文化遺産を尊重しようとする。【社会的事象への関心・意欲・態度】

南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的に考察できる。【社会的な思考・判断】

中世の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化に関する絵画や文献などの資料を収集し、考察した結果をまとめることができる。【資料活用の技能・表現】

南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を、東アジアの歴史の流れと関連させて理解できる。【社会的事象についての知識・理解】

5 指導計画及び評価規準

第2節 ゆれる武家政治（全5時間…本時4 / 5）

時数	学習内容	既習事項および小学校との関連	評価規準
1	南北朝の争乱と室町幕府 室町幕府の成立	小6：室町幕府の成立	建武の新政が失敗し、南北朝の争乱が起こった原因について、後醍醐天皇の政治方針と武士の思いをもとに考察することができる。【思考・判断】 室町幕府のしくみや、将軍と守護大名との関係が理解できる。【知識・理解】

1	海賊船と貿易船 発展する東アジア		足利義満が明や朝鮮と国交を結んだ理由や、琉球王国がアジアの中で果たしていた役割について考察できる。【思考・判断】 明や朝鮮国の成立の動きとともに、日本は両国とどんな貿易を行っていたのかを理解できる。【知識・理解】
1	団結する村 村の自治、町の自治		村や町で自治が行われるようになった背景を、産業の発達や有力者の出現、人々の結びつきの変化などと関連づけて考察できる。【思考・判断】 農業生産の工夫や人々の暮らしの変化について、資料から具体的に読み取ることができる【技能・表現】
1 (本時)	下剋上の世 土一揆と応仁の乱	中1：都道府県名と位置	一揆が起こるようになった原因や、応仁の乱の影響について、当時の社会状況をふまえながら指摘できる。【思考・判断】 応仁の乱の内容を整理してまとめたり、現在の地図と照合しながら一揆の発生地を読み取ったりすることができる。【技能・表現】
1	中世文化の広がり 禅宗と東山文化	小6：室町文化(金閣、銀閣、書院造、足利学校、雪舟の水墨画)	鎌倉・室町文化が、現在の自分たちの暮らしに深くかかわっていることに興味をもち、その具体例を詳しく調べようとする。【関心・意欲・態度】 中世(武士の時代)の文化の具体例について、古代(貴族の時代)の文化との違いに気づき、その特色を指摘できる。【思考・判断】

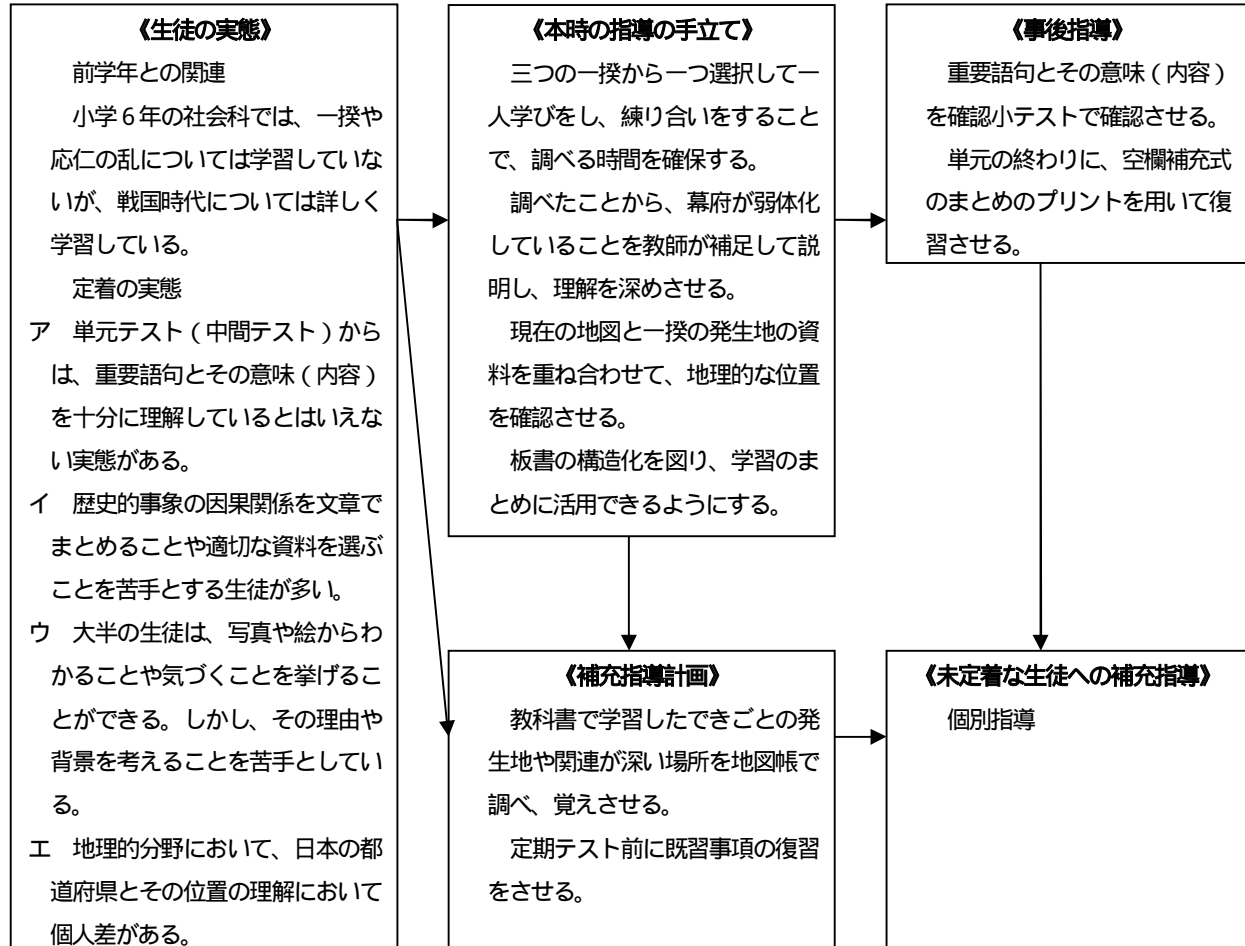
6 本時について

(1) 本時の目標

資料や地図から、一揆の規模や広がりを読み取ることができる。

一揆の原因やその影響について、当時の社会状況をふまえながら考えることができる。

(2) 本時の指導構想



(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点(支援・評価)
導入 5分	1 学習課題をつかむ 一揆がおこる世の中は、どのようなようすだったのだろうか。	奈良市にある石地蔵の碑文を読み、わかることを発表しあう。	<input checked="" type="checkbox"/> 「正長元年ヨリサキ者(八)…」の碑文を読ませ、農民が借金の帳消しを求めて一揆を起こしたことをとらえさせる。
展開 38分	2 学習方法を知る (一揆について)	調べる視点を確認する。 一揆が多く発生しているのはどのあたりか。 それらの一揆の要求は何か。 一揆の結果、その要求は通すことができたのか。	<input checked="" type="checkbox"/> 教科書と資料集を手がかりに調べることを確認する。 <input checked="" type="checkbox"/> 調べる視点を与え、調べる内容を把握させる。土一揆、国一揆、一向一揆から一つ選択させ、調べさせる。 土倉・酒屋・寺院については教師から補足説明をする。
		3 調べる (一揆について) (1) 一人で調べる (2) 練り合いをする (3) まとめる	(1) 調べる視点に対する答えを自分でまとめる。 (2) 調べたことを全体で発表しあう。 (3) 一揆の原因と結果についてまとめる。
	4 調べる (応仁の乱について) (1) 一人で調べる (2) 練り合いをする (3) まとめる	(1) 調べる視点に対する答えを自分でまとめる。 応仁の乱はいつ、どこで起こったのか。 原因は何か。 結果はどうなったのか。 (2) 調べたことを全体で発表しあう。 (3) 応仁の乱についてまとめる。	<input checked="" type="checkbox"/> 調べる視点を与え、調べる内容を把握させる。前半の「学習方法を知る」をふまえ、原因・目的、結果を調べさせる。調べる内容が把握できない生徒に対しては個別に指導する。 <input checked="" type="checkbox"/> 発表は学級全体で行い、教師が整理しながら補足とまとめをする。 戦国大名が生まれたことについては、軽く触れる程度にし、おもな戦国大名の領国についてはあとで扱う。 足輕の活躍については教師から補足説明をする。 <input checked="" type="checkbox"/> 応仁の乱の影響をとらえることができたか。 下剋上の風潮が広まってきたこと、幕府の力が衰えたこと、足輕が台頭してきたことをおさえさせる。

終末 7分 (まとめる)	5 今日の学習をまとめる	今日の学習のまとめをノートに書き、発表する。	<input type="checkbox"/> 学習してわかったことをノートに書かせる。 <input type="checkbox"/> 文章にまとめるのが困難な生徒については、板書内容を参考にしてまとめるように指示する。 <input type="checkbox"/> 本時の学習課題に対する自分の考えをまとめることができたか。
--------------------	--------------	------------------------	--

(4) 本時の評価

観 点	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	Bに達しない生徒に対する配慮事項
社会的な思考・判断	一揆は徳政や年貢の減免などを求めて起きたこと、幕府の力が次第に衰えてきたこと、応仁の乱が起こり、下剋上の風潮が広まってきたことを関連付けて判断し、自分なりの考えを述べることができる。	一揆は徳政や年貢の減免などを求めて起きたことと、幕府の力が次第に衰えてきたことを、資料をもとに判断し、自分なりの考えを述べることができる。	おもな一揆の発生地を整理させ、何を要求したのかを資料をもとに考えさせる。
資料活用の技能・表現	複数の資料の中から必要とする資料を選択し、一揆の発生地や応仁の乱について読み取り、自分の考えも含めながらノートにまとめることができる。	資料と地図から一揆の発生地や広がりを読み取り、ノートにまとめることができる。	教師から必要な資料を示し、一揆の発生地や規模を確認させる。

(5) 板書計画

下剋上の世 土一揆と応仁の乱

学習課題

一揆がおこる世の中は、どのようなようすだったのだろうか。

一揆の広がり

- 一揆の発生...近畿地方を中心に各地でおこる
(惣の自治の高まり)

	目 的	結 果
正長の土一揆		
山城の国一揆		
加賀の一向一揆		

↓

幕府に一揆をおさえる力は?...ない

幕府の力 < **寺院・地方の武士**

弱くなる 力をつけていく

まとめ

応仁の乱 (1467年~)

- 原因...守護大名の争い と 将軍家・管領家の相続争い
- 京都を中心とした戦乱 各地に広がる
- 結果と影響...幕府の力がおとろえる
下剋上の風潮が広がる (戦国大名の登場)